

正 誤 表

第 2 編 担当WG名：[WG 3]

ページ	項番号	行数	誤表示	正表示	備考
xi	3.5 注記(1)	上 21～ 上 22	床版および屋根版の変形または振動によって建築物の使用上の支障が生じないことを国土交通大臣が定める方法によって確かめることをいう。	床版および屋根版を鉄筋コンクリート造以外とする場合は、壁式鉄筋コンクリート造の建築物の保有水平耐力が必要保有水平耐力以上であることを確かめる必要がある。なお、鉄筋コンクリート造以外とする場合は、剛床仮定が成立しないこともあるので計算に注意する。	
xii	3.6 三のイ	上 5	耐力壁の厚さが第五号ロの表一	耐力壁の厚さが第五号イの表一	
36	解表 5.7.2 注		フルプレキャスト床板の場合で、合成床板工法を使用する場合は	合成床板工法を使用する場合は	
56	7.1(1)(b) 式(7.1.2)		…… $p_t \cdot +1/15$ ($1-1.2N/$ ……	…… $p_t+1/15$ ($1+1.2N/$ ……	(1) p_t 後ろの中黒点をトル (2)後ろ側の「-」を「+」に変更
56	7.1(1)(b) 式(7.1.2)		$C_2=(0.8 p_t+N/$ ……	$C_2=(0.8 p_t+0.37N/$ ……	かつこ内第2項に係数「0.37」を乗じる
60	7.1 解説(1)⑤	上 3	5.5 節(3)項による	5.5 節(5)項による	
62	7.2 解説(2)②	上 21～ 上 22	0.12を超える場合は0.12とする	0.012を超える場合は0.012とする	
98	9.4(4)	上 14	11 未満のときは1	1 未満のときは1	
105	10.5 解説(1)	上 5	地下階数が	地上階数が	
129	5.1(4)	上 10	$\Sigma 2.5A_w + \Sigma 2.5A_c \geq ZW_i \beta$ を確認する。 $\Sigma 2.5A_c = 0$	$\Sigma 2.5A_w + \Sigma 0.7A_c \geq ZW_i \beta$ を確認する。 $\Sigma 0.7A_c = 0$	
152	6.1(6)(a)	上 6	付着検定断面位置における長期、短期荷重時の鉄筋存在応力度	鉄筋の長期および短期許容引張応力度	

152	6.1(6)(b)表		σt fb lab 62 2 183 342 2 673 46 2 157 345 2 785	σt fb lab 215 1.62 635 345 2.43 679 215 1.62 734 345 2.43 785	
232	6.1(4)(a)	上 5	付着検定断面位置における短期、長期荷重時の鉄筋存在応力度	鉄筋の長期および短期許容引張応力度	
232	6.1(4)(b)	上 9	σt は、各鉄筋径における最大値を採用した	(全文削除)	
232	6.1(4)(b)表		σt lab 128 437 290 659 96 376 296 771 76 335 320 941	σt lab 215 734 345 785 215 841 345 900 215 947 345 1013	
232	6.1(4)(b)	下 1	以上より、主筋の定着長さは1段筋なので35db以上とする。	主筋の定着長さは36db以上とする。	
262	10.1(5)表	AW5 1 階 判定欄	OK	NG	